

ひびきあう熊川

若狭町立熊川小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	6回(のべ)6日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	20人
授業ボランティア(含:低ボラ)	8人
登下校支援ボランティア	176人
その他(お年寄りからの聞き取り)	8人

(3) 特色ある活動

テーマ 「ふるさと教育」
自然と町並みを守るために

2 具体的活動内容

①校下を流れる河川の調査

近畿地方整備局管内の一級河川水質ランキング1位の北川が学校の前を流れている。今でも「水質がいい河川といえるのか」との課題を掲げ、3年以上の学年が9月29日(木)に、福井県海浜自然センターの職員2名の指導のもと、網や観察用具を持って北川の生き物調査を行った。その結果、清流でしか見られない水生生物が確認できた。

また、10月28日(金)に、5・6年生がパックテストを使って水質調査を行った。



②地元のお年寄りからの聞き取り調査

熊川宿は平成8年に、重要伝統的建造物群保存地区としての選定を受け、地元の方々が歴史的な町並みの保全に尽力されている。他県からも多くの観光客が訪れることから、歴史遺産としての価値は高いものがある。しかしながら、華やかだったころの熊川を児童は知らないため、ふるさとを思う意識を高めるために、地元のお年寄りから当時の町並みについて聞き取り活動を行うことにした。

幸いにも今年の四月に、学校の目の前に居宅介護施設がオープンし、地元のお年寄りが利用していることから、施設を訪問して小学校の発表を披露したりお話をしたりして交流する中で、昔の熊川の町並みについてお聞きした。あるお年寄りは当時のことを鮮明に記憶されており、紙をつないで当時の町並みの様子を手書きで作って児童に渡していただいた。

③学習発表会(保護者、地域学校協議会、地区民に発信)

2月に熊川公民館で、今まで取り組んできた活動や学習した成果や提言を保護者や地域学校協議会や地元の方々に発信する場として学習発表会を開いた。3・4年生は地元の昔についてお年寄りから聞き取り調査したものをまとめた発表と、熊川をPRする方法について、5・6年生は地元を流れる河川を調査して分かったことと今後もこの環境を維持するための提案などを発表した。



3 成果と課題

- 自然や歴史、文化遺産など多くの学習素材があり、地域の方々も協力的なため、ねらい通りの成果を収めるとともに、児童に達成感を味わわせることができる。
- 児童のふるさと教育の深まりに併せて、地域学校協議会の協力体制(運営方法や構成)を見直し、機能性の高い組織に整えていくことが課題である。